

資産名「松本城」の補足説明資料

1 提案資産の価値について

(1) 歴史的価値

松本城は信濃の国の中心に位置し、戦国末期「文禄・慶長期」に創建された天守は近世を通じて6家23代の領主が初期には軍事的拠点として、徳川政権になってからは領国支配の象徴として守ってきました。

天守5棟は明治初年の破却を松本の人々の運動によって免れ、市井の人々の資金によってなされた明治の大修理を経て、昭和11年「国宝」に指定されました。昭和25年から5年をかけて「国の直轄事業第1号」として「国宝天守保存工事」が行われました。その工事中の、昭和27年には「文化財保護法」により「国宝」に指定されています。

また、昭和41年には文部省直轄の「国宝建造物保存修理工事」の漆塗り工事が行われ、以後松本市は継続して毎年漆塗り工事を行い保護に努めています。

北アルプスを背景に、漆黒の下見板と白漆喰のコントラストが美しい天守として広く内外の人々に知られています。

松本城と松本城天守の歴史的価値（完全性・真実性）は以下のとおりです。

(2) 城郭的価値

ア 戦国時代に武田信玄により整備された縄張りを継承する近世松本城

1550（天文19）年武田信玄は信濃府中に侵攻し、平坦地にあった小笠原氏の支城を整備し三重の堀に囲まれた^{へいたんきち}兵站基地として深志城を造り上げました。近世松本城はそれを継承した国宝4城の中では唯一の平城です。（「^{ていかくしき}梯格式+^{りんかくしき}輪郭式縄張り」）

イ 豊臣家臣石川氏によって築かれた軍事拠点としての堅固な城

秀吉は関東に移した家康を監視する中山道筋の拠点として松本城天守（大天守・渡櫓・乾小天守）を1593（文禄2）から1594年にかけて鉄砲戦に備えた軍事拠点として築かせました。

ウ 近世城郭史上「^{てんしょう}天正・^{ぶんろくき}文禄期」に属する我が国現存最古の天守

関ヶ原の戦い以前と以後で天守の性格は軍事的施設としての天守から領国支配の拠点へと変化し「権威の象徴としての^{はくあ}白亜の天守」が出現します。松本城天守は現存12城のうち、関ヶ原の戦い以前「天正・文禄期」に創建された完全性・真実性が高い、我が国最古の天守です。

エ 戦国時代と泰平の世に築造された櫓が連結複合した天守

1633（寛永10）年から1634年にかけて家康の孫に当たる松平直政により辰巳附櫓と月見櫓が増築されました。この2棟と文禄期に造られた3棟の櫓が連なり、異なる時代

に築造された「連結複合式」という構成となっています。

月見櫓には朱塗りの回縁を取り付け、壁は大壁造りで内部は畳敷き、総檜造りで天井は舟形天井に仕上げられています。武備を全くほどこさない瀟洒な建築物です。月見櫓は観月楼として大名文化の一端を示す他に類を見ない遺構です。

オ 軟弱地盤に工夫を凝らして築造された天守

女鳥羽川と薄川の複合扇状地の上に天守は築かれています。1,000 トンの天守の重さを地面に均等に伝えるため天守台内部に 16 本の木の土台支持柱（5 m）が埋め込まれ、石垣の沈下を防ぐための筏地形いかだじぎょうや地盤のズレを防止するため、堀の中に土留どどめの杭列くいづつ等が採用されています。これは軟弱地盤対策をほどこしたきわめて貴重な建築技術遺構です。

2 史跡整備

平成 11 年策定の「松本城およびその周辺整備計画」に基づいて、幕末維新期の松本城の姿を可能な限り復元することを目指して努力を続けています。（別添「松本城およびその周辺整備計画」参照）

3 指摘された「松本城」の個別検討課題について

「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」、資産名：松本城は継続審議とされ個別的課題として、次の 2 点が指摘されました。

(1) 指摘事項

- ア 城郭と一体をなす城下町の諸要素に対する評価の視点が必要である。
- イ 城郭について既登録の「姫路城」、暫定一覧表に既記載の「彦根城」との統合が可能であるかの検討が必要である。

(2) 再提案及び検討状況報告書

ア 再提案書の概要

城下町の諸要素の評価については「城下町の観点からとらえた場合には、他の提案の中に主題の類似するものがある」とされ、今回、松本城の場合は「松本城天守」に本丸・二の丸を中心とした史跡並びに三の丸の城郭遺跡に焦点を絞り、前回の提案を充実させた「再提案書」を提出しました。

イ 検討状況報告書の概要

(ア) 世界遺産の拡張

継続審査結果で指摘された「松本城」個別事項でもっとも重要に考えるのが『既登録の「姫路城」、暫定一覧表記載の「彦根城」との統合の可能性』についてです。

そこで、松本市としては、新たな発想を盛り込んだ「検討状況報告書」を提出しました。姫路城と彦根城との統合の可能性については、当面国宝犬山城を加え国宝 4 城の統合について可能性を打診し、主題を「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」に設定し、統合に向けて各自治体と研究を開始しています。

また、フランス「ロワール渓谷の諸城の世界遺産の拡張」等に見られる世界遺産登録拡張のあり方についても情報を収集し、今後のあり方を検討しています。

(イ) 主題を「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」に

a 近世城郭の発達史

近世城郭は中世の山城から平山城・平城へとその立地を変えていきました。防塁は土塁から石垣に変わり、郭内には恒久的な建築物が造られる様になりました。1600(慶長5)年の関ヶ原の戦いを境にして徳川氏が天下を手中にするとそれまでの武備を施した下見板張りの堅固な黒を基調とした天守から「優雅な外観をもつ白亜の天守」が出現しました。

このことは、戦略的拠点としての天守から領国支配の拠点として天守が権威の象徴としての意味を持つようになった事を示しています。このような政治的変革が天守のデザインを変化させた顕著な例を国宝4城の中に見ることが出来ます。姫路城・彦根城・犬山城は日本の城郭発達史上最盛期の「慶長後期」に属する天守です。松本城は「天正・文禄期」に属する戦略的性格の強い城郭であるとともに「^{げんな}元和以降(江戸期)」の櫓が連結複合している城郭です。

b 世界基準の追加

国宝4城の世界的レベルは、「世界基準:() / 人類の創造的才能を表現する傑作」、「世界基準:() / 人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築群、技術集積または景観の優れた例」であり、世界基準からみれば皆同じである。しかし、「日本の近世城郭群」とした場合、城郭の発達を視野に入れ「世界基準:() / ある期間を通じて、またはある文化圏において建築・技術・記念碑的芸術・町並み計画・景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの」の価値を加えることができ、世界的価値は更に高まります。

また、最近の共同研究の中で、国宝4城は泰平の世の**大名文化を示す遺構**が幾つもあり、「世界基準:() / 現存する、あるいはすでに消滅した文化的伝統や文明に関する独特な、あるいは稀な証拠を示しているもの」が更に追加できる可能性が出てきています

* このような、世界遺産の拡張については、世界遺産851件の内、拡張指定を受けているのが77件もあります。

C 「日本の近世城郭発達史」 現存する12城

天正・文禄期	1573～ 1596	(安土城・豊臣大坂城) 松本城【天守・渡櫓・乾小天守】
慶長前期 (関ヶ原戦前)	1597～ 1600	(岡山城・広島城)
慶長後期 (関ヶ原戦後)	1600～ 1615	彦根城・姫路城・犬山城・松江城・丸岡城・宇和島城・初代高知城・丸岡城・初代宇和島城・初代松山城・初代弘前城、
^{げんな} 元和以降 (江戸期)	1615～ 1868	丸亀城・備中松山城・松本城2棟【辰巳附櫓・月見櫓】

()内は存在しないか、外観復元

世界文化遺産特別委員会 WG からの個別質問に係る事項

1 質問 1 について

本丸及び二の丸の天守を中心とした史跡並びに三の丸の堀に主要な価値を見出しているが、提案された構成資産が城郭の主たる部分を包含していない理由は何か。

(1) 解 釈

本丸及び二の丸の天守を中心とした史跡並びに三の丸の堀に主要な価値を見出しているが、御殿・藩庫・櫓・土塀といった政庁機能を持った要素と防衛機能を持った施設が上げられてこないのは何故か。ということと解釈します。

〔城郭は 2 つの要素から構成〕

城郭の防御施設等の基礎構造部分	堀・土塁・石垣・地形の造成
基礎構造の上に造られる <small>きくじ</small> 作事と呼ばれる部分	天守・櫓・土塀・御殿・蔵

(2) 回 答

城郭の主たる部分の構成は、松本城の場合、防衛機能を備えた天守 5 棟と土塀・隅櫓・多門櫓・馬出と政庁機能を持った本丸御殿・二の丸御殿・藩庫・幕府の 8 千俵蔵等です。今回、松本城の場合は、御殿・藩庫・櫓・土塀といった政庁機能や防衛機能を持った要素については、下記の「松本城およびその周辺整備計画」において現在整備・研究中であるために、天守 5 棟等を城郭の主要部分として提案しています。

〔整備計画の解説〕

昭和 53 年度に 16 項目からなる「松本城中央公園整備計画」を策定、平成 11 年度に新たに 18 項目で策定された「松本城およびその周辺整備計画」（別添）は復元の基準を「明治維新期の松本城の姿を可能な限り具現くげんすることを目的とし、調和と統一のある復元をはかる」として整備が進められています。当城郭の主要部分である資産の整備計画は以下のとおりです。

<松本城およびその周辺整備計画」の計画一覧>

区分	NO	整備項目	事業化の時期等
本丸地域	1	管理棟の撤去（松本城管理事務所等）	早期、移転
	2	本丸御殿跡の整備（発掘調査及び平面復元）	実施済
	3	北外堀内側石積の補修	順次、補修
	4	多聞櫓、折廻し櫓の復元	長期、復元
	5	足駄堀の復元	順次、復元
	6	内堀の復元	一部実施予定（20年度）
二の丸地域	7	黒門門台石垣の改修	順次、改修
	8	日本民俗資料館の移転（松本市立博物館）	早期に実施予定
	9	辰巳隅櫓の復元	長期
	10	古山地御殿跡整備（松本市立博物館跡）	早期に実施予定
	11	八千俵の復元と周辺整備	順次
	12	南・西外堀復元	実施予定
	13	南隅櫓の復元	順次
	14	東北隅櫓の復元	順次
三の丸地域	15	二の丸御殿の復元	実施済（平面復元）
	16	北馬場総堀整備	長期、整備
町並み	17	御幸橋付近の総堀の整備	順次、整備
	18	周辺景観の整備と町並みの保全	早期、順次、長期（一部実施）

早期（1～10年）、順次（11～14年）、長期（15年以上）

平成19年2月国史跡指定を受けた「土井尻土塁」の発掘調査により土塁の幅・高さ等の参考資料が得られ、二の丸土塁復元の参考資料が得られています。

整備研究会委員は有識者6名、指導助言者は国、県等3名で構成されています。

2 質問2について

松本城を現存する最古の天守遺構として評価されているが、他の城郭との比較により、事実関係を具体的に説明されたい。

(1) 解 釈

松本城を現存する最古の天守遺構として評価されているが、他の城郭との比較により、事実関係を具体的に説明し、松本城が現存する最古の天守閣であることを立証して下さい。

(2) 回 答

下記の資料により、松本城天守は現存する天守としては日本で最古である。

ア 国宝・重要文化財現存 12 城の天守創建年代表

番号	城 名	現存天守創建年	築城年（縄張り）
1	国宝 姫路城	1609(慶長 14) 池田輝政	1581(天正 9) 羽柴秀吉
2	国宝 彦根城	1606 (慶長 11) 井伊氏	1622(元和 8) 井伊直勝
3	国宝 松本城	1593~94 (文禄 2~3) 石川康長	1504(永正 4) 小笠原氏
4	国宝 犬山城	天文初年頃 1・2 階 1600 (慶長 5) 3・4 階 1620 (元和 6) 唐破風高欄設置 *1・2 階は 1601 (慶長 6) 説あり	1535 (天文 4) 織田信康
5	重文 弘前城	1810 (文化 7) 再建 津軽氏	1611 (慶長 16) 津軽信枚
6	重文 丸岡城	1576 (天正 4) 柴田勝豊とされる 1613 (慶長 18) 説あり 昭和 26~30 再建 (昭和 23 福井大地震で倒壊)	1576 (天正 4) 柴田勝豊
7	重文 松江城	1611 (慶長 16) 堀尾吉晴	1611 (慶長 16) 堀尾吉晴
8	重文 備中松山城	1683 (天和 3) 水谷氏	1240 (仁治元) 秋庭重信
9	重文 松山城	1853 (嘉永 6) 再建 松平氏	1602(慶長 7)加藤嘉明
10	重文 宇和島城	1665(寛文 5) 再建 伊達氏	1601(慶長 6) 藤堂高虎
11	重文 高知城	1749(寛延 2) 再建 山内氏	1603(慶長 8) 山内一豊
12	重文 丸亀城	1660(万治 3) 京極高知	1597(慶長 2) 生駒親正

イ 国宝犬山城および丸岡城天守創建年代については以下の 2 説がある。

(ア) 犬山城天守 (3 重 4 階)

天守創建年代を「修理工事報告書」によれば、1・2 階が天文初年頃(天文年間 1532 ~ 1554) に現在地に創建され、1600 (慶長 5) 年に 3・4 階の望楼部分が増築され、1620 (元和 6) 年に南北面の唐破風をつけ、4 階に回縁を取り付けたとされています。

しかし、西和夫博士は文献史料を再検討して創建年代は新しく 1601 (慶長 6) 年天

守1・2階が造営されたとの説を出しています。

(イ) 丸岡城(2重3階)

昭和23年福井大地震で倒壊し、現在の天守は昭和26年から30年にかけて**再建**された。天守創建を示す記録はないが「柴田勝家公始末記」に見られる丸岡城築城年代1576(天正4)年を天守創建年代とみなし、現存12城の中で最古の遺構とするのが通説とされています。しかし、天守が慶長期以降の形式を持ち合わせていることから創建年代を本多飛騨守成重が入城した1613(慶長18)年頃とする説もあります。

ウ 松本城天守創建年代

松本城天守創建年代については平成2年「国宝松本城築造年代懇談会」が構造上の特徴並びに文献の再検討に基づき、「1593(文禄2)年12月着工、1595(文禄4)年2月以前竣工」とした。

エ 松本城築造年代懇談会

松本城築造年代懇談会がそれまでの松本城天守建築に関する諸説を精査し、可能な限り関係史料を収集し分析して「1593(文禄2)年12月着工、1595(文禄4)年2月以前竣工」と結論づけ、松本城築造年代懇談会は平成2年6月26日答申書を松本市へ提出しました。

〔松本城築造年代懇談会委員名〕

NO	氏名	役職
1	金井 円	元東京大学史料編纂所教授
2	平井 聖	東京工業大学教授のち昭和女子大学教授
3	服部 英雄	文化庁記念物課文化財調査官
4	中川 治雄	松本市文化財審議委員・信濃史学会事務局長
5	高山三千彦	松本史談会長・日本司法博物館長
6	倉品 明正	郷土史家・日本考古学協会員
7	徳武 幸直	松本市教育次長

提案に関する推進状況

1 姫路城・彦根城等との統合・再整理に向けた動きについて

松本城の個別検討課題である既登録遺産「姫路城」、既暫定一覧表記載遺産「彦根城」等との統合・再整理が可能であるか、また、その実現の可能性等について姫路市、彦根市、犬山市と意見交換を重ね、3月19日に第1回の事務担当者会議を開催しました。

平成20年度は、国宝4城で「日本の近世城郭群」としての統合が可能かさらに研究を深めたいと考えています。したがって、「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」として再提案するため、各自治体の合意形成と資産構成、今後の保存計画等を早急にまとめます。当面は国宝4城を中心に研究を深めていきます。

2 組織・体制の強化について

(1) 松本市は世界遺産登録推進強化のため、政策課、文化財課、松本城管理事務所内に世界遺産推進担当職員を配置する予定です。

(2) 彦根市、犬山市は世界遺産登録推進強化のため、専門部署の設置及び世界遺産推進担当職員の配置を検討しています。

3 長野県の係わりについて

長野県としては、松本市が「日本の近世城郭群」という提案の可能性について、関連する市と共に研究を始めたことを踏まえ、その合意形成が得られた段階で、関連する県に対し、新しい提案に向け連携して取り組むことを働きかけてまいります。

4 「松本城」周辺整備の現状と見通しについて

(1) 松本城外堀の復元（南・西外堀 約8,900㎡）

ア 平成19年10月23日 市長、外堀復元を表明（11月1日地元説明会を実施）

イ 平成19年11月2日 松本市議会は外堀復元を了承

ウ 平成20年3月 西外堀の外側ラインを確定のため発掘調査実施

エ 平成20年4月 史跡指定範囲の決定

(2) 国史跡「土井尻土塁」の復元と整備

（H19.2国史跡追加指定約680㎡ 全体計画約1,700㎡）

ア 平成19年度 歴史公園として整備のための基本設計を策定

イ 平成20年度 土塁復元のための発掘調査と実施設計の作成

ウ 平成21年度 歴史公園として整備

(3) 松本市立博物館の移転（二の丸古山地御殿跡）

平成 19 年 7 月に基幹博物館基本構想策定委員会の提言を受け、平成 20 年 7 月を目途に基本計画策定委員会が基幹博物館の移転場所、経費、施設の規模等について基本計画を策定し、遅くとも平成 26 年度までに移転完了の予定です。

(4) 松本城管理事務所の移転（本丸内）

松本城管理事務所の移転については市立博物館移転と連動して検討します。

5 遺産地域及び緩衝地帯の保護担保措置

松本城周辺建物の高さ制限（計画課）

景観法に基づく新たな「景観計画」の策定と松本市都市景観条例の改正を行います。

(平成 20 年 4 月 1 日施行を予定)松本城周辺は、「お城歴史的景観区域」として高さを制限(29.4 m)。



6 規制に係わる部局との連携の状況

松本市は世界遺産関連・環境整備として、庁内連絡会議を立ち上げ政策部、教育部、建設部、財政部が連携して事業を進めています。

7 地域住民の合意形成状況

全市的な推進団体である「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会を中心に「姫路城を中心とした日本の城郭群」という主題のもと、世界遺産登録に向けた運動を推進しています。